

行政 議員



徳島市新町西地区市街地再開発事業完成イメージ図

日時 令和6年11月11日～12日
 参加者 寺嶋 正、飯田 一、南雲 まさ子、
 吉田 功、武尾 哲治、北村 和士
 視察場所 徳島県徳島市、上勝町、神山町

**徳島市新町西地区
 市街地再開発事業
 20年越しの着工
 新しい町に希望を**

「新町西地区市街地再開発事業」は市街地の空洞化が進み1990年代から再開発が模索されてきました。新松田駅周辺整備事業の集約施設部分と照らし合わせて、予算規模、経過、開発面積等が非常に類似しています。市長が変わる度に揺れ動いた再開発事業でしたが、4月からは解体工事も始まり、事業に参加しない意向の地権者の土地を除いた計画にしたため、「虫食い」のような状態で準備・工事が進むことになりましたが事業は本格的に動き出しています。対象は新町橋の南西エリア。地権者らでつくる再開発組合の主導で、高層マンションやホテル、遊覧船の川の駅などが建設される予定です。開発面積1.3haに対して松田町は約1.1ha。

資金計画の面でも新町西地区は140億円に対して新松田駅周辺事業の集約施設は120億円と金額も近く、新町西地区が1～2年先行し、松田町はこれを追っているような感じです。

阿波踊りや眉山の観光地を抱え「徳島市景観まちづくり条例」により、建築物の延べ床面積や、工作物、重要樹木など景観に関するものは、徳島市景観審議会の意見を聴かなければならないと規定しています。

これら、再開発事業が計画通り進むと、商業と観光が一体になった素晴らしい、活気のある町に生まれ変わるのではないかと期待とともに、新松田駅周辺事業も観光面も考慮した、にぎわいのある商業地域にしたいものと考えました。

**上勝町は「ば」ビジネス
 農業におけるすきま産業**

上勝町は徳島市から約

40kmに位置し面積は松田町の約3倍で、人口は1352人で農業はすだち、ユズの栽培などです。

昭和5年までは「みかん」が主要な農産物でしたが昭和56年の大寒波によりミカンの木が全滅しました。これを契機にミカンに代わるビジネスとして38年前（昭和61年）JA職員の横石氏の発案により農家を個人事業主とした「葉っぱ事業」を展開することにしました。

農業における「すきま産業」と位置づけ、野にあるものを採取して出荷するのではなく、町が山を買取り植樹したり、自分の山に苗木を植樹したりして葉を収穫し、出荷をしています。農家さんの平均年齢は75歳だということでした。

JAが市場関係者・消費者から注文を受け、パソコン・タブレットに注文情報を流し生産者である農家が注文を受け商品をJAに出荷します。

「株」いろいろはパソコン・タブレットに市況・出荷・分析・出荷目標などの情報提供や市場分析・営業活動などを行っています。

山間部を多く持つ松田町でも、町特有の地域環境を生かしたビジネスを模索したり、何か事業化を図るためには、地域内の事業者が専門分野で協力し合う必要性を痛感しました。（記 飯田 一）

**神山バレー・サテライト
 オフィス・コンプレックス
 創造的過疎レクチャー**

徳島空港から車で1時間ほどの山間に位置する神山町は、人口5000人弱の町です。この町には世界中からアーティストや企業が集まり、2023年には企業出資で高等専門学校が開校しました。その原動力は33年前、「地元の子どものために何ができるか」を考えた4人の地元自営業者たちの行動でした。

この活動を見ると、新しい動きは住民主導が最速・最短・最善ということがよくわかります。町主導だと制度上、いくら面白くても、成功するかわからないことへのチャレンジがしにくい面があります。住民が楽しみながら行動し、ある程度形になって、皆さんの賛同を得られるようになってから、資金も含めて町が応援していく形が理想的です。

神山町では2016年に「成り行き未来」をテーマにワークショップを実施。「このままだとどうなるのか？」という問いかけを通じて現状を共有し、新たなプレーヤーの発掘をしました。松田町でも広報で特集ページを設け、町の現状を知らせています。理想のゴールにたどり着くためには、現在地を町民として共有する必要がありと考えます。

（記 北村 和士）